

キャラクター名 忌兇 屍(ききょう・かばね) プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー		ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	UGNエージェント
	パロール					
オプション	年齢	32	性別	男性		
覚醒	死	衝動	解放	初期侵食率	43%	
出自	親戚と疎遠	経験	UGNへの忠誠	邂逅		

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	1	0	0			1	行動値	13
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	13
精神	3	1	2	1		7	戦闘移動	18
社会	1	0	2			3	全力移動	36

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:レネゲイド	2		情報:UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
<紡ぎの魔眼><蝕む赤><鮮血の鎖><死神の瞳>		0				「演出しか出来ないんだって」
<灰色の庭>		0				「急に体重増えたんじゃないのか？」
<時の棺>		0				「なんもしてないって」
<ナーブジャック>		0				「うーん、最低。」

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0	
ロイス		対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
		遺産継承者: 誓約の瞳P		N		
		半田半蔵	P 信頼	N 食傷		
		科戸 六花	P 庇護	N 嫉妬		
			P 尽力	N		
			P 有為	N		
			P	N		
			P	N		
		最大財産P:	8	残り財産P:		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	2	2	メジャー					
効果: クリ値-(Lv)								
蝕む赤	2	1	メジャー	視界		RC		
効果: 「邪毒」付与。								
鮮血の鎖	1	4	メジャー	視界		RC		
効果: 命中した場合、C値+1								
死神の瞳	5	3	メジャー	視界	単体	RC		
効果: 射撃攻撃。次に受けるダメージ+(Lv+2)D								
灰色の庭	3	2	セットアップ	視界	単体			
効果: 対象の行動値-(Lv×3)								
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果: 判定失敗。シナリオ1回。								
紡ぎの魔眼	3	1	メジャー					
効果: ダイス+Lv個								
ナーブジャック	1	10	メジャー	視界	単体	RC	120↑	
効果: <意志>対決。勝利した場合メジャーを1回行わせる。								
悪魔の影	1	5	メジャー	視界	単体	RC	80↑	
効果: リアクション不可								
魔王の覇気	3	2	メジャー	視界	単体	RC		
効果: 攻撃力-(Lv×2)								
ワームホール	1	4d10	オート	視界	単体	自動	120↑	
効果: 対象はPCが受けたダメージと同じ分のダメージを受ける(最大でPCの最大HP)								
ディメンジョンゲート	1	3						
効果:								
偏差把握	★							
効果:								

一人称:「オレ」「オジサン」
 二人称:「アンタ」「おまえ」「坊ちゃん」「お嬢ちゃん」
 「～だ」「～か？」

元浮浪者の、まるで絵に描いたようなダメ人間ならぬダメオーヴァード。動くのが嫌いだ。動くのが嫌いだ。酒と煙草と賭博は好きだ。そんな、絵に描いたようなダメダメのダメオーヴァード。

正義感だけは一丁前にあるが、肝心の能力が追いついていない残念な男。他人を見捨てることは絶対にしないが、その無能さに呆れられ、逆に相手から見捨てられるタイプ。幼い頃はガキ大将タイプだったが、足が速いとか悪知恵が働くとか、大人になるにつれてそんなものは段々と無価値になっていく。この男も例にも漏れず周囲から人が離れて行くにつれて塞ぎ込み、やがて自分から独りになっていった。

……で、オーヴァードに覚醒したと思ったら自分で殴ることもすら出来ないなんて、あんまりじゃないか。基本的に他人の後ろを歩く。自分から率先して前に出ることは無い。「やだ、コワ……」

覚醒のきっかけは誓約の瞳に「力が…ほしいか……」と話しかけられたことである。競馬で負けに負けて不貞腐れながら階段を降りていたところを、たまたま落ちていたそれに話しかけられたのだ。……で、それはもうハチャメチャに驚き、階段で足を滑らせて転落して死んだ。なんとも呆気ない最期である。その後覚醒し、勝手に眼球に棲まわれたことに気が付くも、そのままにしている。「だって、目ん玉抉るとか絶対痛えもん。オジサン痛いの嫌いなんだよな～」。モノの力に頼るのが本能的に嫌らしく、乱用することはない。あと、単純になんだかこの能力を使うのが怖いのだ。上記の「遺産」の影響のため、他人を信用することはない。この男の行動理念は「自分に利があるか否か」である。

◆以下、RHOバレ注意

